

—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

サウジアラビア経済：インフレ率の上昇

(8月11日付現地紙)

8月11日付現地紙は、サウジアラビアのインフレ率の上昇について報じている。

1. クウェイトファイナンスハウスは、非石油部門の堅調な業績によって、今年のサウジのインフレ率は4.5%に増加すると予測している。なお、サウジ通貨庁（SAMA）が発表した6月のインフレ率は、過去7ヶ月で最も低い3.5%であった。
2. 2000年から2013年までの平均のインフレ率は2.8%で、2008年7月の11.1%が最高で、2001年1月の2.0%が最低であった。また、2010年から2013年までの平均の消費者信頼感指数は110.92で、2011年9月の120が最高で、2013年3月の95が最低であった。
3. サンバ銀行のレポートによると、サウジリヤルのドルペッグ制は今後3年以上継続し、サウジの政策金利は米国の政策金利に支配される。また、サウジの金利は、国内の貸付金需要に影響され、結果として2014年末までにサウジの銀行間金利は約0.8%まで低下する。しかし、米国連邦準備制度理事会は政策金利を二度にわたって0.25%ずつ上昇させる可能性があり、サウジ通貨庁も同様の措置を取り、この上昇によって2015年末までにサウジの銀行間金利は1.2%に達する。